

福竜丸だより

— 都立・第五福竜丸展示館ニュース —

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

● 100万人参観者運動を!

'83年9月来館者数	3,505名
通算1カ月平均来館者数	4,244名
当月1日平均来館者数	135名
通算来館者数	373,502名

ビキニ水爆被災の全容を

田沼肇

ビキニ水爆被災による世界的な事件が、まもなく三十周年を迎えようとしている。私はこの機会に、なぜビキニ水爆被災が、わが国における原水爆禁止運動の原動力となったか、もっと深く考えることがたいせつだと思ふ。そのためには、まずビキニ水爆被災の全容を知り、学ぶことが必要である。

第五福竜丸平和協会は、七年前、文部省科学研究費補助金によって『ビキニ水爆被災資料集』を刊行したが、これは、今日でも十分に活用のおうちをもつ、基本的な文献といつてよいだろう。しかし、あの膨大な『資料集』をもつてしても、ビキニ水爆被災の全容が解明しつくされているとはいえない。

同書のために資料収集の中心になった林茂夫氏は、当時、「ビキニ事件には、いまなお『ナゾ』に

つつまれている部分が数多く残されている」として、つぎのような一例をあげた。

「事件の処理方針大綱をきめた閣議決定が、内閣官房の書庫の奥深く保存されていることをつきとめ、担当者から外務省とも相談してその返事もえた。だが、国会議員を通じての資料請求にたいする外務省の回答は、いまもって『マール秘』扱いなので見せられなというものであった。われわれは驚きもし、あきれもした。」

このような例をみるにつけても、ビキニ水爆被災の全容が解明され、理解されればされるほど、国民のあいだでは、核兵器のない、平和と幸福の世界への展望が強まるであらうことが、確信される。

私も、『ビキニ水爆被災資料集』の編集に加わったひとりであるが、新しい資料に接するたびに、い

にならないように私たちは、何をすればよいのでしょうか。

船が工事で、もとの形にちかいかたちにもどったと思う。

ぼくは今、社会科で福竜丸の勉強をしています。こんなひどいことをするなんて最低だと思ひます。これから原水爆なんてなくしてしまえばいいと思ひます。

今、大韓航空機のこと、世界が緊張していて、もしかしたら米ソの戦争となるかもしれない。しかし、我々だけでなく世界のみんな

この九月末日に武藤宏一氏追悼文集が増刷されました。七月三〇日に刊行された初版が予想以上に反響を呼び、約一カ月で売切れとなったためです。

「感動しました」「良い本を作ってくれて感謝します」等の声も寄せられています。反核・反戦・被爆者救援のために、生命の炎を燃やし続け、四〇歳で亡くなった武藤さん。武藤さんの人間性と思想をひとりでも多くの方に知って

なで広島や長崎のようにさせないようにならなければ……。(十五歳)

げんばくはもうおこらないほしい。ひばく者へ一言。みんなでこんなことが二度とおこらない平和な日本をつくりあげますからね。

人間はなんてばかなことをしたのだろう。人間が人間をばかいするなんて……。これからは、戦争は必ずしない/やらせない/子どもだからといって、せんそうはんたい/平和な世界を……。

「沈めてよいか第五福竜丸」増刷

武藤宏一氏追悼文集
「沈めてよいか第五福竜丸」は、平和協会の三宅会長の筆によって書かれました。

発行・武藤宏一氏追悼文集編集委員会
9ポ一段組 二五〇頁/四六判上製
頒価・一、六〇〇円(送料共)
・申し込みは、第五福竜丸展示館 館気付編集委員会

編集後記

▼九月二十三日、焼津弘徳院で行なわれた「9・23久保山愛吉氏墓参追悼のつどい」に第五福竜丸平和協会からのメッセージが、江東区職労の青年部の代表の手によって届けられ、連帯を強めた。

▼昨年八月来日、展示館を訪問した全米退役被爆軍人協会会長、スミザーマンさんが九月十二日、米テネシー州の病院で肝臓ガンのため死去という悲しいニュースを知り無意味かつ非人道な核兵器を使用する人々に怒りを持った。

▼十月一日には米最新鋭核空母「カールビンソン」が入港した。そのなかで、一人一人の力の結集による「平和の輪」「行動の輪」が国民的な反核兵器廃絶運動へと燃え広がり、定着していくために今何が必要なのかもあらためて考えさせられた。

▼展示館の入場者も今、増えつつあり、九月一日には三七万人目の来館者を迎えた。何度もこの館を訪れる人も多く、励まされる。来館者五〇万人をめざすために、展示館の充実、福竜丸だよりの充実もあわせてはかっていきたい。(も)

来館者の声から



夏休みに、広島市の平和公園の原爆史料館へ行ったことがある。そのときにいろいろなものを見て、原水爆や戦争などがカッコいいとおもっていたことが、いっぺんできらいになった。水爆についてはなにも知らなかったけど、あらためて、核兵器の恐ろしさを知った。

今日は、おいつ子のけんじをいっしょに連れてここへ来ました。けんじは「大きな船だなぁ」と言っているだけでした。もうすこし大きくなったらこの船の話をしてやろうと思います。

運営、管理など大変だろうと思いますが、平和のためにいつまでも残してほしい。第五福竜丸です。 平田



(平和協会理事・日本原水協代表理事)

文化祭訪問記(一)

今年も「文化祭大賞」を

学園では「文化祭」シーズンが到来。「福竜丸」の展示館に訪れ熱心に学習。昨年にひきつづき文化祭の取材へと九月二十四日市が谷にある家政学院を訪ねた。



家政学院の門をくぐる。いかにも女子校らしい、かわいい飾り付け、マンガのキャラクターのポスターなどが人目をひく。当日配ばられたパンフには「魔法の国」、「おとぎばやし」、「かぼちゃの花」など四二の企画が並ぶ。まるで「おとぎの国」へ招待されたみ

たいな印象を持ち世代の差、年月の流れを感じつつ、こういふなかで「反戦・反核展」が催されるのだろうかと疑問を持ちつつ展示会場へ。「いらっしやい、説明しますよ」と元気な声が会場に響きわたる。模造紙に書かれた、原爆・水爆・中性子爆弾・核ミサイルの構造と破壊力。核兵器のうつつりかわり、平和運動にいたるまでさし棒を持って、一生けんめい見学者に説明する女子高生には感嘆するばかり。とくにビキニ被災のことはよく勉強しており、第五福竜丸被災表、死の灰からまぐる騒動まで詳しく解説してあった。会場にはこの他に、「アニメ・ピカドン」「アトミック・カフェ」などビデオコーナや原爆写真展、核問題書籍コーナーも設けてありよく工夫されていた。説明を受けたある男子高生は「女子ばかりでこれだけのことがやれていることがうらやましい。自分たちの学校ではこういうことを積極的にやる人がいな

い」と生徒会役員の率直な感想。この企画をした彼女らは「先輩が昨年こういう企画をやった文化祭大賞をとったので頑張りたい」、「自分たちが学習して説明したことは忘れないので勉強になった」と目を輝かせて語ってくれた。中学時代からの友人という彼女たち、

記念碑に菊花を手向けてつどい

9月23日・第三回久保山忌句会も

九月二十三日は、死の灰に命を奪われた久保山愛吉さんの命日。「原水爆の被害者はわたしを最後にしてほしい」の誓いをあらたにしようと、展示館の前でもいくつかのつどいもたれました。

すっきり晴れあがった空のもと久保山さんの遺言をきざんだ記念碑の前で、午前十時、新俳句人連盟ほか俳句人のみなさんが白い菊の花を碑にたむけ、小さな俳句で核廃絶への大きな行動をの決意をあらたにしました。

つづいて午後一時、平和と軍縮をめざす全国連絡会の主催で二百人近い青年・学生が結集して「久保山愛吉氏を追悼する平和のつど

高二有志六名による「反戦・反核展」は、二四・二五日でのべ四百人の見学者を迎えたという。「私達は自分たちで何ができるかを考えてみました。そして、何を訴えることができるか……。」この企画の紹介どおり充実した内容だった。

い」。平和協会理事の本多喜美さん、東京都原爆被害者団体協議会の長尾當代さんが激励のあいさつをのべ、地元の音楽集団ともしびの演奏など多彩な催しの中、今後の活動の強化を決意しました。

また、近くの江東文化センターでは平和協会も協賛して第三回久保山忌句会。今年は事前に投句をよびかけたり、午前中からの展示館見学をはじめ発句の苦心が実り、一七五余句が披露されるなど盛況。愛吉忌今年三つのざくろの実ひろむの句が第一席となり各自が自信句を色紙に揮毫十月初旬展示館で作品展がひらかれます。

死の灰から三〇年

〈6〉

マーシャルの被ばく者たちはいま—その4
写真・文 桐生広人



クエジエリン環礁のほぼ全域は、米国のミサイル実験場とされ、クエジエリン本島にはそのための基地がおかれている。島は米国人好みの芝生の広場や競技場、ゴルフ場、そしてデパート、スーパーマーケット、映画館、近代的な病院

まで完備したパラダイスである。29年前、ロンゲラップやウトリックで死の灰を浴びた被ばく者たちは、救出されるとこの島の病院へ収容され、治療を受けた。当時のことをある被ばく者は「灰のため

にできた火傷は手当てしてくれなかった。これは毎日海に入って体を洗うだけだった。これが治療だった」という。今でもこの病院から病院船が年二回島々を巡り、診察にあたって

いるが、これはあくまで診察のみで、治療を目的としたものではないので島民には忌み嫌われている。しかし、他に適切な医療施設がないばかりにモルモット扱いられていることがわかっていても一抹の不安のため診察を受けざるをえない無念さがよく理解できる。

今年の九月、自由連合協定が国民投票によって承認され、被ばく者に対し巨額の補償金が支払れることになったが、この配分をめぐる新たな問題が起こりそうなお金配分をめぐり、この移住や、原爆病院をつくるなどしたいが、アメリカの生活になれなくなってしまった人は現金をよこせというし……と頭をかかえている。私たちの第五福竜丸の母なる海太平洋。その彼方のマーシャル諸島の被ばく者は、孤立無援の中で日々との苦悩をますます深めつつある。わが国では、広島・長崎・ビキニと熱っぽく反核、平和が叫ばれているが、ここ「マーシャルの叫び」は永遠に無視され続けるの

であろうか。四月号から六回にわたる桐生さんの「死の灰から三〇年」は今回をもってしめくります。日本からそう遠くは離れていないマーシャル諸島、そして美しい太平洋の海に浮かぶ島。この島々の人々の生活の擁護を私たちは考えていきたいものである。

第五福竜丸平和協会第56回理事

事会決定事項(83・9・27)

出席理事 三宅泰雄・斎藤鶴子・猿橋勝子・田沼肇・本多喜美・檜山義夫(委任状)

一、活動報告(文書報告)略

二、当面の活動 9・22の都との相談にもつき船体修理工事を促進する

③資料室建設を具体化し田沼理事を中心に都知事への接渉を行う

④福竜丸だよりの充実をはかり、編集委を設け長期的な編集の方針を討議する。担当は本多・斎藤両理事に事務局

⑤広報資料の作成・普及を考え、写真集「目で見ると第五福竜丸」(仮)の発行を前向きに検討する。絵はがきの改訂版、展示館の案内を作成する

⑥ビキニ被災30周年の行事計画を評議員会の検討を参考に今後煮詰め

ていく

⑦次回理事会は11月28日。

三、賛助会員の拡大

①被災30周年を機に一層の運動強化と入会をよびかける訴えをつくり、たより読者はじめリストアップし理事が分担し入会を訴えていく。

評議員会も開催

理事會にひきつづき評議員會が

九月二十七日学生会館でひらかれ

①30周年記念行事の立案

②資料室の建設促進

③賛助会員の拡大など討議。シンポジウムの開催など今後理事會で討議を重ねていくこと

にしました。